

地域おこし協力隊通信

第23回

「白鷹町の歴史・文化ごと
引き継げるように」

地域おこし協力隊 石井 紀子

蚕桑地区で
活動中!

あけましておめでとうござい
ます。

早いもので協力隊として過ご
す最後の正月になり、今年10月
に協力隊の任期が終了します。
最終年にふさわしい仕事ができ
るよう、気合いを入れていきま
いと思います。

最近、古民家をリ
フォームして飲食店や
宿にするという話を耳
にします。建築の保存
なり、古民家を訪れる
機会が生まれるのでう
れしいお話です。

一方で、古民家を使
うには、まず家の片づ
けをしなくてはなりま



鵜渡川原(うどがわら)人形(酒田市)
の絵付け体験で作った犬の置物

せん。不用品の中には江戸時代
や明治時代などの文書や先祖の
名前が入った骨とう品が出てき
たり、まれに仏像が発見される
かもしれない。とあるお宅で
は、古いお札が見つかり調査を
行うことになりました。

こうした史料は、「大切なも
のだからうけど、どうしたら良い
かわからない」と悩みの種にな
りやすいと思います。しかし、
白鷹町の歴史を知る大切な史料
なので、捨てずに歴史好きな人
に声をかけてみたり、石井にご
一報いただければ幸いです。

今後、人口減少に伴う古民家
の整理や解体は多くなっていく
ことでしょう。白鷹町の存続を
気にするならば、この土地が持
つ歴史・文化ごと引き継げるよ
うに気を配りたいと思います。

町報川柳 — 最 —

民謡に聞き惚れ下る最上川
祖父が言うむかし泳いだ最上川
最高美味と天気と芋煮会
最近は特に動きが鈍くなり
脳錆びて最近目立つ物忘れ
最愛の妻と言えませす嘘じゃない
名の由来考えながら喰う最中
孫の皆婆の最たる癒しです
最低のくらしで今も生きてます
最上川子供頃に鱒捕り
最高の力を出してがんばるぞ
最上川他県を跨ずひた流る
すすき枯れ最上川にも白い鳥
最後まで頑張る部活上達早し
清き流れの最上川汚水流れて濁りたり
人生の最後はゼロで終わりたい
ご褒美に小豆最中で一報(いっぷく)し
最上階下界見下ろす富裕層
西あずまから日本海流れる最上川
最近の子らはスマホとにらめっこ
遠耳の最もらしく頭下げ
最上川郷(ふるさと)の四季映し行く
最愛の夫に感謝日々想う
京へ江戸へと紅花運んだ最上川
老々介護最も重みのある言葉
唄も絵も四季を彩る最上川
幸せを最終列車が待ち受ける
最上川皆んなの川よきれいにし
悠悠と休まず疾き最上川
かわいそうこの世の最後特攻隊
良い仲間至福最高「はっぴー」だ
最終えいってわかった掛け違い

坂戸市 安達 功
長井市 安部ありな
高岡 安部 健一
山口 石川與次衛門
荒砥乙 五十公野春己
鮎貝 植木 英夫
浅立 梅津 太一
浅立 梅津美千子
滝野 海老名きち
世田谷 遠藤 八重
横須賀 大滝健次郎
荒砥乙 木口 とよ
菖蒲 小関 弘
山口 児玉 保子
萩野 紺野 五月
鮎貝 佐藤 幸子
鮎貝 神保 玲子
荒砥甲 鈴木美貴子
十王 平 恒人
高玉 高橋 朝子
荒砥乙 土谷 灯一
箕和田 土屋 平敏
箕和田 土屋 敏子
広野 新野智耶子
高玉 橋本つね子
荒砥乙 保科 努
十王 松野いせ子
ふじみ帯 村上 桂造
十王 守谷 勝助
十王 守谷 三郎
鮎貝 横沢 直太
山口 渡部喜美子

次回「達」一月二十五日まで。 「終」二月二十五日まで。
白鷹町大字荒砥甲八三三番地 白鷹町役場企画政策課情報係 宛